

## 令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施報告書(3年次)

研究指定校	北海道津別高等学校	教育局	オホーツク教育局
-------	-----------	-----	----------

1 研究主題	
「地域から世の中を探究する」～地域と大学と高校の連携をとおして～	
2 研究実践内容	
月	実施内容
6月	<p>※今年度、新型コロナウイルス感染症に伴い、4～5月の活動は実施せず、2学年の「つべつ学Ⅱ」における地域巡検等の時間を大幅に減らし、北海道大学公共政策大学院との高大連携事業を通して「歴史」「産業(ビジネス)」の分野を取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生23名が「つべつ学Ⅰ」で、「農業」をテーマに、JAつべつの有岡氏を外部講師として迎え、食の安全、地産地消などについての講義を受けた。また、河本農場代表の河本純吾氏を講師として迎え、地元津別町を盛り上げるため新商品の開発、農業の機械化などについての講義を受けるとともに、唐辛子の植え付けの体験を通して課題研究を実施し、各グループで課題解決策を発表した。</li> <li>・2年生13名が「つべつ学Ⅱ」で「地方自治」をテーマに津別町役場を訪問し、各部署の業務内容等の聞き取り調査を実施した。津別町議会の様子を見学し、津別町の現状の課題等の把握を行った。</li> <li>・1年生23名が「つべつ学Ⅰ」で、2学年生徒13名が「つべつ学Ⅱ」で、それぞれ北海道大学公共政策大学院との連携事業をリモートで実施した。「自分の将来を考える」をテーマに、バックキャストイングの方法について演習を実施した。</li> </ul>
8月 ～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生13名が「つべつ学Ⅱ」で、北海道大学公共政策大学院との連携事業を実施した。(10～12月はリモートで実施。)</li> </ul> <p>「高校生フォーラム」での発表へ向けて、「津別町の理想の未来を考える」をテーマに、津別町総合計画を確認しながらプレゼンテーション資料を作成した。</p>

10月	・1年生23名が「つべつ学Ⅰ」で「畜産・酪農」をテーマに、JAつべつの中川氏を外部講師として迎え、津別町の酪農・畜産業全般に関わる状況や後継者不足などの酪農・畜産業に関わる課題などについての講義を受けた。石川ファームを訪問して、代表の石川賢一氏からオーガニック牛乳の原料となる乳牛の飼育についての話を聞き、干し草運搬の体験を行った。また、つべつ和牛を飼育している迫田農場を訪問し、代表の迫田浩司氏から、肉牛の種類や飼育方法の機械化などの話を聞き、各グループで課題発見・解決策を発表した。
12月	・2年生11名が「成果報告会」として、高大連携事業で取り組んできた「津別町の理想の未来を考える」を3グループで発表した。発表の様子は、町内インターネットテレビ局「道東テレビ」の協力を得て、You Tubeで生中継され、1年生及び3年生は校内で視聴した。
<b>3 地域みらい連携会議の開催内容</b>	
第 1 回	令和2年7月10日(金) 13:00~15:00
出席者	宮管委員、高橋委員、河本委員、山上委員、後藤指導主事
協議内容	・事業の趣旨、実施計画について説明 ・今年度の実施方法について
指導・助言を受けた内容	・この取組を通して、地方創生について中心となる人材の育成につなげる。 ・様々な業種での職場体験をさせる。 ・教科横断的な取組になるよう工夫が必要。
第 2 回	令和2年12月5日(金)
出席者	
協議内容	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止
指導・助言を受けた内容	
第 3 回	令和3年2月17日(水) 13:00~13:45
出席者	高橋委員、山上委員、高橋委員
協議内容	・1年間のまとめ ・次年度に向けて

指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定した人脈にならないようネットワークを広げていくとよい。</li> <li>・商品開発を検討し、津別町の「ふるさと納税」と関連付けていくのと特色ある活動になるのではないだろうか。</li> </ul>
<b>4 研究の成果と課題</b>	
<p>(1) 目的の達成状況</p> <p>○1年生は、農業、畜産酪農業のテーマ学習において「課題」が与えられたなかでその課題を解決するための情報収集能力が高まっていった。2年生は、昨年からの積み上げの成果もあり、自分たちで課題を発見していくことができ、事後アンケートの自己評価では「課題発見能力が身に付いた」と回答した生徒は50%となり、昨年度と比べ約23%上昇した。</p> <p>●新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、当初予定していた1年生の「津別町の自然」、2年生の「津別町の歴史」のテーマ学習を実施することができなかった。津別町の歴史に目を向けることで、より津別町の未来について考えることができる」と生徒からの声もあり、次年度は実施へ向けて準備を進めていきたい。</p> <p>(2) 目標の達成状況</p> <p>○つべつ学Ⅰ(1年生)、つべつ学Ⅱ(2年生)を終え、事後アンケートの「授業内容は期待通りだった」に対する回答は、1年生が91%、2年生が82%であった。(定量的な評価)</p> <p>○また、「自分の住んでいる地域の役に立ちたい」に対する回答は、1年生が86%、2年生が67%で昨年度よりも12%上昇した。(定量的な評価)</p> <p>○活動全体を通して、コミュニケーション能力、傾聴力が身に付き、一つの見方で物事を考えるのではなく、様々な視点に立って地域のことを見るできるようになった。(定性的な評価)</p> <p>○北海道大学公共政策大学院「HALCC」との高大連携事業において、学生から「昨年よりも、自分たちからやりたいと言う雰囲気がにじみ出ていた。」「発想力が豊富になり、実際の町づくりにも役立つアイデアが出てくるようになった。」との評価を得た。(定性的な評価)</p> <p>(3) 実践研究の規模</p> <p>○未来プロジェクト委員会で計画案を立て、学年単位で「つべつ学」実施したことで、生徒の状況に合わせてまとめ作業や発表資料の制作について臨機応変に対応することができた。</p> <p>●新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から計画通りに実施することができないテーマ学習もあったため、今後の状況を鑑みながら計画を立てていく必要がある。</p> <p>(4) 研究成果の普及</p> <p>○つべつ学Ⅰにおいては、テーマ学習ごとに発表の機会を設け、外部講師にも来校していただき、研究内容や成果を報告することができた。</p> <p>○高大連携事業の成果報告会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から一般公開はしなかったが、津別町役場、地元の道東テレビの協力を得て報告会の様</p>	

子をYouTubeでライブ配信し、全校生徒で視聴した。また、YouTube視聴のチャンネルを学校だより(町内2400部配付)に載せ、町民に対してもPRすることができた。

**(5) 実践研究内容**

- 「つべつ学活動報告会」を2月17日(水)に実施予定している。関係機関に広く参加を促し、本校の取り組みに対しての理解がより深まることが期待される。
- 1月に実施した事後アンケートでは「自分の住んでいる地域(津別、美幌、北見)に対する「思い」は強くなったか」に対して、津別町以外(北見・美幌)の1年生の57%、2年生の60%が「あまり強くない」と回答している。

**(6) 地域みらい連携会議**

- 実態を把握するために実施する調査の方法について、適切な助言を得たことから、目的に合った調査を実施できた。
- 会議の開催時期については、実践研究との進捗などを踏まえ、柔軟に開催する必要がある。

**5 プロジェクトの達成状況**

**(1) [評価の観点] 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について**

(評価)

一部の生徒に対しては、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながる取組となった。

(評価した理由)

- ・ 大学進学者のうち50%の生徒が、地域経済や地域医療を学び将来的に地元の役に立ちたい、実家の酪農業を継ぐために飼育環境を学びたいと地元に対する意識が強まった。

**(2) [評価の観点] 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について**

(評価)

地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。

(評価した理由)

- ・ 年間の活動を通して、協働した取組を実施したのは①津別町役場②河本農場③JAつべつ④石川ファーム⑤迫田農場⑥北海道大学である。
- ・ テーマ学習や高大連携の取組後の発表の際に、関係者を招いて成果や課題を報告し、講評をいただいた。

(3) 【評価の観点】 生徒の主体性について

(評価)

生徒は、指示の範囲で主体性を持って取り組むことができている。

(理由)

- ・ 2年生は、今年度の事後アンケート結果から、身に付いた資質・能力について、課題発見能力が27%から50%に、想像力が0%から42%に上昇した。
- ・ 1年生は、同アンケートで、課題解決能力が9%、想像力が23%であった。1年間のつべつ学を経験して、これらの資質能力が向上する事が見られるので、継続的に取り組んでいくことが必要と考える。

(4) 【評価の観点】 地域課題の解決状況について

(評価)

取組により、地域課題の解決につなげることができた。

(理由)

「津別町の理想の未来を考える。」をテーマにした高大連携事業の成果報告会において、津別町長、北海道大学公共政策大学院教授から、生徒の津別町に対する提言に対して高い評価を得た。

6 今後の取組

- ・ 次年度、3学年そろっての「つべつ学」を実施することになる。「つべつ学Ⅲ」では、これまでの2年間の探究活動の成果を生かして、生徒個々に地元地域の課題解決に向けての方策を考え、発表していく。「つべつ学Ⅱ」では、北海道大学公共政策大学院との連携事業に取り組む準備として「地方自治」「産業」「歴史」といったテーマ学習に取り組んでいく。
- ・ 今年度は実施されなかった津別町内での各種イベントにより多く参加し、そこでの体験や感じた課題を生かすことができるような探究活動の充実に努めていく。

## 7 参考資料

### (1) 高大連携事業成果報告会の様子



「津別町の理想の未来を考える」をテーマに、津別町役場で発表を行いました。町の中心部へのWi-Fiスポットの整備、健康維持のためのスポーツ施設の整備など多方面にわたる提案と実現に向けての課題について発表しました。当日の様子は地元の道東テレビの協力で生放送されました。

### (2) 北海道大学公共政策大学院との高大連携事業の様子



6月から12月まで行われた高大連携事業では、活動の多くは、Zoomを利用したオンライン形式で取り組みました。11月には「北大オンラインツアー」と称して、大学院生が北大キャンパスや博物館の様子を1、2年生に向けて紹介してくれました。

### (3) 体験入学時における1年生による「つべつ学Ⅰ」の発表の様子



9月に行われた津別高校体験入学に参加した中学3年生に向け、「農業」についてポスターセッションを行いました。初めての発表に緊張した様子でしたが、日本と諸外国の農薬の使用についての比較や地産地消について調べたことを参観者に発表しました。